

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國 (写真)

日 時：2017(平成 29)年 12 月 17 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴 (12 時の気温：0℃)

活動エリア：45 林班に-01

活動内容：作業小屋と周辺の清掃、安全講習(座学、実技演習、備品チェック) ほか

参加者：石原順子、泉家恵子、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、下沖裕子、杉本佳英、

武田壽夫、山 國

(計 9 名)

<新年もよろしく>

平成 29 年最後の活動日、寒さは寒さながら空は抜けるような青空で風は微風。一年の最後にふさわしい好天に。

この森林づくりは国の「森林・山村多面的機能発揮対策事業」の採択により(=つまり、「大阪さとり地域協議会」を通じて交付金を受けている)取り組んでいて、「安全研修」もその要件の一つ。今日は、**実技を含む現地研修**を中心に、作業の打ち合わせなども兼ね活動にあてる。研修の講師は森林組合の人手が台風で荒れた山々の後始末に追われているということで招聘せず、他の森づくり団体での研修経験の多い斧田氏を中心に、安全講習を受けたことがある倉谷、武田の両名を助手役として相互研修の形で行った。

<研修の前に、先ず、「お掃除」を>

作業小屋の屋根は一年分の落葉が積もり、雨樋を埋めかねない。溝や足下はすぐに落葉が重なる。と云うことで、脚立を梯子に 2 人は屋根に、残りは熊手や鍬で地上の掃除。**迎春に備え、掃除は念入りに。**

さて、肝心の研修は教材として「チェーン作業の安全」(林業・木材製造業労働災害防止協会編)から、伐倒時の安全確保に必須な項目を抜粋した資料を使用。これを卓上に置き、ステップ毎の安全確保に欠かせぬ手順を勉強。(内容は充実、身体を動かさないので寒い、これは「我慢」)。その後、2 班に分れ**伐木の基本動作を確認・励行しながら針葉樹・広葉樹各 1 本の伐倒作業を実施。**

胸高直径の計測→樹高・伐倒方向の確認→安全な退避距離と避難方向の足下確保→伐倒方向へのロープ張り→受け口切り、追い口切りの要領→伐倒後の処理、と一々確かめながらの実地研修。終了後、**携行ザック内の用具を点検**し、現地での活動を終える。下山して、遅い昼食を取りながら鋸刃や長靴、皮手袋など、**不足する消耗品の確認**を行う。以上、一年の締め括り。

<山だより & 読者の皆様に>

開通待たれる新名神、内 高槻 JCT～川西 IC 間が 12 月 10 日開通(原の集落からの ramp-way は未竣工)。神戸 JCT までは H29 年度中開通とのことで、北摂からのアクセスは格段に便利になる訳だが、現時点では「部分開通」的なので、写真の通り車の姿は「疎ら」。

皆様には、常日頃から我々の森林づくりに関心を持って頂き、感謝。新年も応援を宜しく。

【講義の開始】



【先ず屋根の掃除から】



【足もとの落ち葉も「お掃除」】



【教材を開いて安全ステップを再確認】



【樹高の目視測定】



【実技開始(針葉樹の例)—先ずロープ張り】



【高枝切り鋸で邪魔な枝を前処理(広葉樹の例)】



【針葉樹の受け口切り】



【受け口完成(針葉樹)】



【追い口を入れる(広葉樹の例)】



【「つる」を残す(広葉樹の例)】



【安全裡に針葉樹を伐倒】



【後処理を忘れずに(広葉樹の例)】



【切り株(手前は針葉樹、奥は広葉樹)】



【携行ザックの用具点検】



【ザックに納めるテープ類】



【不足用品のリストアップ中(遅い昼食前の意見交換)】



【新名神部分開通(東向きに一台走行中)】

